

鳥類

(1) 鳥類相の概要

長崎市の山地は、少数の 500m 級の山を最高として、400m 級以下の山が市街地周辺のほぼ全域に多数存在した起伏の多い山地である。自然林は高木林や低木林が広く、一部に原野もあり植生の変化も見られ、山野の鳥の生息には適した環境である。ほぼ全域の山地がよく似通っていて共通性の多い環境であり、生息する山野の鳥の分布も大きな変化はなく、局所的な分布は見られない。池や河川では、林に囲まれた貯水池が各所にあり、海岸は港と平坦な埋立地のほかは、断崖の多い荒磯の海岸が多くなっている。また、市町村合併により、市域が南北に広がったことに加え、特に南西端に位置する旧野母崎町が日本列島を東西に通過する渡り鳥の重要な中継地であることが、近年の調査によって明らかになっている。

市内での確認種は、2000 年 46 科 203 種であったが、今回の調査では、2011 年 6 月現在、亜種を含めて 55 科 259 種が認められており、その他に外来種としてジュケイ、ドバト、エジプトガン、ガビチョウ、コブハクチョウの 5 種が確認された。

季節別の状況でみると、一年を通して長崎市内で見られる留鳥が 43 種（2000 年 28 種）で、秋 10 月下旬に長崎市に飛来し翌年春に渡去する冬鳥が 75 種（2000 年 80 種）、春 3 月以降長崎に飛来し各地で繁殖したのち秋に越冬地の東南アジアへ渡去する夏鳥は僅かに 11 種（2000 年 10 種）、その他は長崎を春秋に通過する旅鳥または稀に見られる迷鳥が 130 種（2000 年 85 種）と半数以上を占めている。一例をあげると、近年になって長崎市でも繁殖が確認されたハクセキレイなど、従来は冬鳥と思われていたセキレイ類やオオルリなど、かつては旅鳥とされていたヒタキ類が夏鳥として繁殖するようになり季節的分類の移動もあり、季節分類は固定的なものではないと考えられる。なお、今回確認された鳥の種類は、2000 年に比べて 56 種増えているが、前述のとおり野母崎町が長崎市に編入されたことによるものと考えられ、そのほとんどが旅鳥の記録となっている。

次に、レッドデータブック及びレッドリストへの掲載希少種数を比較すると、平成 12 年度では亜種を含めて 80 種がリストアップされていたが、今回は 59 種に圧縮されている。その理由としては、長崎市での確認機会が増えたことでは無く、平成 13 年度以降から現在まで確認されなかった種や長崎市の環境から見て迷鳥と考えられる種を削除したことにある。また、シギチドリ類などは、長崎市では飛来可能な湿地や干潟が少ない環境であるため記録が少ないが、全国的にはレッドリストに入らない種も除外している。

具体的には、10年以上記録がないか迷鳥と考えられる種や亜種としてヤマドリ、サンカノゴイ、オオワシ、ベニバト、トラフズク、コミミズク、オオコノハズク、チュウヒ、イワミセキレイ、コアジサシ、カワアイサ、シロカモメ、ハジロクロハラアジサシの13種と長崎市では比較的観察例が多いか増加している種のチゴハヤブサ、アオゲラ、マミジロツメナガセキレイ、ホオジロハクセキレイ、シマアカモズ、コマドリ、コルリ、クロツグミ、メボソムシクイ、ムギマキ、オオルリ、ホオアカ、シマノジコ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、カツオドリ、カワウ、ダイサギ、ハシビロガモ、キンクロハジロ、バンの21種および長崎市では迷鳥性の強いシギチドリ類のハジロコチドリ、メダイチドリ、オオチドリ、ケリ、サルハマシギ、オバシギ、アカアシシギの7種の計41種を削除するとともに、新たに調査期間中に確認された以下の20種を追加して合計59種とした。

(新たな追加種 20種)

ヒメウ、オオヨシゴイ、アカガシラサギ、カラシラサギ、クロサギ、オシドリ、オオタカ、サシバ、コチドリ、ヤマシギ、アオバズク、キュウシュウフクロウ、ヤイロチョウ、チゴモズ、カワガラス、ミソサザイ、ウチヤマセンニュウ、キクイタダキ、ノジコ、カケス

(2) 鳥類リスト

	科名	和名	県区分	環境省区分	ページ
絶滅危惧ⅠA類 (CR)	サギ科	カラシラサギ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	準絶滅危惧 (NT)	93
	サギ科	オオヨシゴイ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	93
	シギ科	コシャクシギ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	93
	ウミスズメ科	ウミスズメ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	93
	フクロウ科	アオバスク	準絶滅危惧 (NT)	—	94
	ヤイロチョウ科	ヤイロチョウ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	94
	モズ科	アカモズ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	94
	モズ科	チゴモズ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	94
	ホオジロ科	シマアオジ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	95
絶滅危惧ⅠB類 (EN)	サギ科	ミソゴイ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	95
	カモ科	トモエガモ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	95
	タカ科	オオタカ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	準絶滅危惧 (NT)	95
	ハヤブサ科	ハヤブサ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	96
	ツバメチドリ科	ツバメチドリ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	96
	ブッポウソウ科	ブッポウソウ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	96
	サンショウクイ科	サンショウクイ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	96
	ウグイス科	ウチヤマセンニュウ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	97
	ウ科	ヒメウ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	97
	ウミスズメ科	カンムリウミスズメ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	97
	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	サギ科	クロサギ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	—
タカ科		サシバ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	98
ツル科		ナベツル	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	98
ツル科		マナツル	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	98
セイタカシギ科		セイタカシギ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	98
ヨタカ科		ヨタカ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	99
カワセミ科		ヤマセミ	絶滅危惧ⅠA類 (CR)	—	99
カササギヒタキ科		サンコウチョウ	絶滅危惧ⅠB類 (EN)	—	99

(2) 鳥類リスト

	科名	和名	県区分	環境省区分	ページ
準絶滅危惧 (NT)	サギ科	チュウサギ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	99
	カモ科	ヨシガモ	準絶滅危惧 (NT)	—	100
	カモ科	オオヨシガモ	準絶滅危惧 (NT)	—	100
	タカ科	ミサゴ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	100
	タカ科	ハチクマ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	100
	タカ科	ハイタカ	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	101
	キジ科	アカヤマドリ	絶滅危惧 I B 類 (EN)	準絶滅危惧 (NT)	101
	クイナ科	クイナ	絶滅危惧 II 類 (VU)	—	101
	クイナ科	ヒクイナ	準絶滅危惧 (NT)	絶滅危惧 II 類 (VU)	101
	チドリ科	コチドリ	準絶滅危惧 (NT)	—	102
	シギ科	ヤマシギ	準絶滅危惧 (NT)	—	102
	ハト科	カラスバト	絶滅危惧 II 類 (VU)	準絶滅危惧 (NT)	102
	カッコウ科	カッコウ	—	—	102
	フクロウ科	キュウシュウフクロウ	準絶滅危惧 (NT)	—	103
	カワセミ科	アカショウビン	絶滅危惧 I B 類 (EN)	—	103
	ヤツガシラ科	ヤツガシラ	—	—	103
	ツバメ科	コシアカツバメ	—	—	103
	カワガラス科	カワガラス	絶滅危惧 I B 類 (EN)	—	104
	ミソサザイ科	ミソサザイ	準絶滅危惧 (NT)	—	104
	ウグイス科	ヤブサメ	—	—	104
	ウグイス科	オオヨシキリ	—	—	104
	ウグイス科	キクイタダキ	絶滅危惧 I B 類 (EN)	—	105
	ヒタキ科	キビタキ	絶滅危惧 I B 類 (EN)	—	105
ホオジロ科	ノジコ	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	105	
カラス科	カケス	準絶滅危惧 (NT)	—	105	
情報不足 (DD)	アビ科	アビ	準絶滅危惧 (NT)	—	106
	アビ科	オオハム	準絶滅危惧 (NT)	—	106
	サギ科	ササゴイ	情報不足 (DD)	—	106
	サギ科	アカガシラサギ	準絶滅危惧 (NT)	—	106
	カモ科	オシドリ	準絶滅危惧 (NT)	情報不足 (DD)	107
	カワセミ科	ヤマショウビン	—	—	107
	シジュウカラ科	ヒガラ	絶滅危惧 I B 類 (EN)	—	107

(3) 鳥類

カラシラサギ (サギ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Egretta eulophotes (Swinhoe)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 神ノ島町、高浜町
県内 ; 男女群島、対馬市

摘要

全長65cmで、朝鮮半島西岸、極東ロシア日本海沿岸や中国福建省の小島で繁殖し、冬期はフィリピン、インドネシア、ボルネオなどに渡って越冬する。長崎県内では、従来離島の記録しかなかったが、2003年5月神ノ島の蓄養生簀で2羽観察され、2010年には高浜海水浴場脇の河口部でも記録されている。



オオヨシゴイ (サギ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Ixobrychus eurhythmus (Swinhoe)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 永田町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長39cmで、長崎県内では各地で記録があるが、全国的な湿地の埋め立てなどによる葦原の減少によって、個体数を減らしている。2010年10月黒崎永田湿地自然公園で長崎市では初めて観察された。



岩下氏撮影

コシャクシギ (シギ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Numenius minutus Gould

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 神ノ島町、脇岬町
県内 ; 県本土域、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長31cmで、クチバシが下に曲がった杓シギ類では最も小さく、春の渡りの季節に稀に見られる。他の杓シギ類と食性が異なり、干潟に入ることはなく開けた草地や農耕地で見られる。佐賀県では、佐賀空港の周辺の草地で良く見られており、神ノ島では工業団地の草丈の低い乾燥地で見られた。



ウミスズメ (ウミスズメ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Synthliboramphus antiquus (Gmelin)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

分布

市内 ; 神ノ島町
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長25.5cmで、かつて1970年代までは長崎県沿岸域で冬期普通に見られていたが、近年では極めて稀にしか見られなくなった。長崎県南部では、雲仙市小浜町海岸でしばしば見られている。



吉田氏撮影

アオバズク (フクロウ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Ninox scutulata japonica (Temminck & Schlegel)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 茂木町、野母崎樺島町

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長27~30.5cmで、1990年代までは5月中旬になると決まってアオバズクの鳴き声が聞かれたが、東長崎では2001年以降姿を消した。現在毎年確認されている場所は、茂木町と野母崎樺島町など数か所に過ぎず、長崎市での繁殖地は危機的な状況となっている。

**ヤイロチョウ** (ヤイロチョウ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Pitta brachyura nympha Temminck & Schlegel

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 長崎県民の森、野母崎樺島町

県内 ; 県本土域、対馬市

摘要

全長18cmで、長崎県内では古くは雲仙岳で繁殖が確認され、定期的に渡来が確認されている場所は対馬市など、ごく限られた場所だけであった。長崎市内では、2005年以降長崎県民の森でしばしば観察されているが繁殖は確認されていない。

**アカモズ** (モズ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Lanius cristatus Linnaeus

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 野母崎樺島町

県内 ; 壱岐市、対馬市、男女群島、五島列島、県本土域

摘要

全長20cmで、本州中部以北の高原などに夏鳥として渡来する。かつては中部地方の高原では普通に見られたが、チゴモズ同様にその数は減じている。長崎県では春秋の渡りの時期に離島を中心に通過個体が稀に見られる。長崎市では2008年、2010年5月に野母崎樺島町で確認された。



林田氏撮影

チゴモズ (モズ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Lanius tigrinus Drapiez

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

分布

市内 ; 野母崎樺島町

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、対馬市

摘要

全長18.5cmで、日本での繁殖が急激に減少し、全国的にも絶滅を危惧されるモズ類。長崎県では、春秋の渡りの季節に主に離島で通過個体が見られているが、長崎市では、2009年、2011年春の渡りで野母崎樺島町を通過していることが確認された。



吉田氏撮影

(3) 鳥類

シマアオジ (ホオジロ科)

絶滅危惧 I A類(CR)

Emberiza aureola ornata Shulpin

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、高浜町、宮崎町
県内 ; 五島列島、男女群島、対馬市

摘要

全長14cmで、日本では北海道のオホーツク沿岸の湿原で繁殖する夏鳥。日本本土では繁殖地の環境変化により著しく個体数が減り絶滅が憂慮されている。長崎県では離島を通過していたが、長崎市で2007、2009、2010年野母崎樺島町や高浜町、川原大池で5月に確認され、県本土域を通過していることが判明した。



ミゾゴイ (サギ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Gorsachius goisagi (Temminck)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、神浦北大中尾町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長49cmで、長崎市では4月上旬から中旬にかけて、野母崎樺島町を中心に渡り途中と思われる個体が、2008年以降毎年確認されている。全国的にも里山環境の変化によって環境省のリストでは前回の絶滅危惧種NTから一挙に絶滅危惧 I B類にランクアップされた。



岩下氏撮影

トモエガモ (カモ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Anas formosa Georgi

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 川原大池、本河内低部水源地、神ノ浦ダム
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長40cmで、長崎市内では不定期にオシドリなどに混じって貯水池などに少数渡来する。時津町中山ダムでは、比較的渡来が多く、諫早湾など、コガモに混じって稀に干潟に渡来することもある。



オオタカ (タカ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Accipiter gentilis fujiiyamae (Swann & Hartert)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、宮崎町、神ノ島町、琴海戸根原町
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス50cm、メス57cmで、隣接する諫早市の干拓地では毎年越冬するが、長崎市内では2005年以降9月から12月にかけての記録のみで、越冬個体を見る機会は少ない。おそらく、冬期の餌となるカモ類などが豊富な広い狩場に無いため、不定期に通過するためと思われる。全国的には環境適応力により I B類からNTへと下がった。



ハヤブサ (ハヤブサ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Falco peregrinus japonensis Gmelin

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町、神ノ島町、宝町、伊王島町

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス41、メス49cmで、長崎県内ではほぼ周年見られるが、9月から3月にかけて冬鳥として越冬する個体を見る機会が多い。隣接する西海市松島では繁殖が確認されており、5月下旬野母崎樺島町や伊王島町などの離島で雌雄と思われる個体がしばしば観察されているので繁殖の可能性は高い。市内のホテルを縄張りになっている

**ツバメチドリ** (ツバメチドリ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Glareola maldivarum Forster

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 神ノ島町、永田町、宮崎町、高浜町、野母町

県内 ; 県本土域、男女群島、対馬市

摘要

全長24.5cmで、長崎市内では神ノ島の造成地でほぼ毎年春の渡りの季節に見られ、秋には幼鳥も見られていたので重要な渡りルートとなっている。その他の場所では広いグラウンドや湿地などで時折見られているが、不定期で全て春の記録のみである。

**ブッポウソウ** (ブッポウソウ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Eurystomus orientalis (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A類 (CR)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、脇岬町、長崎市民の森、長崎県民の森

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長29.5cmで、長崎市では春は5月、秋は9月野母崎樺島町や長崎市民の森での記録が多く毎年少数が通過している旅鳥。過去には対馬市などで夏鳥として繁殖したようであるが、現在では旅鳥とされている。九州では大分県や熊本県で繁殖しているが、営巣木となる巨木の減少により、人工的な橋梁などのすきまを利用しているようである。

**サンショウクイ** (サンショウクイ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Pericrocotus divaricatus divaricatus (Raffles)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町、稲佐山、長崎市民の森

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長20cmで、長崎市では春4~5月、秋9月に野母崎樺島町や長崎市民の森で確認されることが多い。九州では亜種リュウキュウサンショウクイが福岡県まで分布を広げているようであるが、長崎県でも散見されるようになって来ている。



(3) 鳥類

ウチヤマセンニュー (ウグイス科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Locustella pleskei Taczanowski

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、母子島
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、対馬市

摘要

全長17cmで、伊豆諸島・熊野灘沿岸・九州周辺の島嶼部に夏鳥として渡来し繁殖するウグイスの仲間。長崎県下では阿値賀島などの離島で繁殖しており、野母崎樺島町では毎年4~5月にさえずりが聞かれる。6月下旬の記録もあるので繁殖の可能性が高い。



渡辺氏撮影

ヒメウ (ウ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Phalacrocorax pelagicus Pallas

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長73cmで、九州北部で繁殖が確認されているが、長崎県では冬鳥としてウミウなどと同じ岩礁で見られることが多い。以前野母崎行政センター沖合の岩礁で冬期に見られていたが、樺島漁港沖合の岩礁で10羽以上の群れが確認された。



カンムリウミスズメ (ウミスズメ科)

絶滅危惧 I B類(EN)

Synthliboramphus wumizusume (Temminck)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 下黒崎町
県内 ; 県本土域、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長24cmで、主に本州、四国、九州、伊豆諸島で繁殖するとされ韓国南部でも繁殖しているとされる。長崎県でも2010年九十九島海域で幼鳥が確認された英名に日本を冠しているウミスズメ類。長崎周辺では冬期橘湾でしばしば見られるが数は少ない。海鳥の繁殖習性上、天敵に対して無防備なので絶滅が憂慮されている。



クロサギ (サギ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Egretta sacra sacra (Gmelin)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神ノ島町、野母崎樺島町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長62.5cmで、神ノ島の魚類蓄養生簀周辺では、数は少ないもののほぼ周年見られる。その他岩礁の多い野母崎樺島町や野母町でも時折見られるが複数見られることは稀である。



サシバ (タカ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Butastur indicus (Gmelin)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、長崎市民の森
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス47cm、メス51cmで、春と秋に少数ながら定期的な渡りが見られる唯一の場所が樺島であり、2008年5月に繁殖行動が観察され、8月に幼鳥も確認された。全国的には里山の環境変化により繁殖地が減少し環境省のリストでランク外から一気に絶滅危惧種に記載された。

**ナベヅル** (ツル科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Grus monacha Temminck

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町、神ノ島町
 県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長96.5cmで、長崎県はナベヅルの渡りルートとなっており、特に長崎半島は春の北帰ルート上にあるので、3月下旬に野母崎樺島町上空を通過する群れがしばしば観察される。神ノ島では、2009年5月に渡りに遅れた1羽がしばらく滞在した。

**マナヅル** (ツル科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Grus vipio Pallas

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町、神ノ島町、稲佐山
 県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長127cmで、マナヅルも春の渡りでは、ナベヅル同様に長崎上空を通過するが、季節はナベヅルより1か月早く2月中～下旬に見られることが多い。2002年4月に渡りに遅れたマナヅル1羽が神ノ島にしばらく逗留した事例があり、神ノ島の広い造成地がツル類の緊急避難場所として利用されているようである。

**セイタカシギ** (セイタカシギ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Himantopus himantopus himantopus (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A 類 (CR)
 環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 神ノ島町、永田町
 県内 ; 県本土域、対馬市

摘要

全長37cmで、長崎市はシギチドリ類の降り立つ干潟や湿地が極めて少ないので、ほとんど上空を通過しているようである。神ノ島に設置された長崎市西部下水処理場の実験槽やビオトープには時折渡り途中に一時降り立つ個体が見受けられる。



(3) 鳥類

ヨタカ (ヨタカ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Caprimulgus indicus jotaka Temminck & Schlegel

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長29cmで、かつては東長崎でも毎年渡来し、夜間鳴き声を聞き、夏の訪れを感じる野鳥であった。全国的に急減したため環境省のリストでもランク外から絶滅危惧 II 類の絶滅危惧種に記載された。長崎では春の渡りの時、時折確認されているが局所的である。



林田氏撮影

ヤマセミ (カワセミ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Ceryle lugubris lugubris (Temminck)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I A 類 (CR)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神ノ浦ダム、神ノ島町
県内 ; 県本土域、壱岐市、対馬市

摘要

全長37.5cmで、長崎県は地形が急峻で平野部が少なく、ヤマセミの生息可能な流量と餌となる魚類や豊かな河川が少ない。多良山など一部の河川に生息していたが、近年ほとんど見られなくなった。長崎市では、移動途中と思われる個体がダムなどで時折見られる。



サンコウチョウ (カササギヒタキ科)

絶滅危惧 II 類(VU)

Terpsiphone atrocaudata atrocaudata Eyton

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、神の浦ダム
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス44.5cm、メス17.5cmで、長崎県下では、対馬市などで夏鳥として繁殖しているが、その他の場所ではほとんど旅鳥として通過しているようである。長崎市では、春の渡りでは、野母崎樺島町で多く確認され、その他秋の渡りでは神浦ダムや市民の森でも観察されている。



チュウサギ (サギ科)

準絶滅危惧(NT)

Egretta intermedia intermedia (Wagler)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 神ノ島、黒崎永田湿地自然公園、八郎川、野母崎樺島町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長68.5cmで、長崎市では春の渡りの4~5月と秋の渡りの9~10月に見られることが多く、稀に6月に記録されるが、夏期の7~8月と11月~3月の冬期の記録はないので旅鳥である。



ヨシガモ (カモ科)

準絶滅危惧(NT)

Anas falcata Georgi

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 川原大池
 県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長48cmで、長崎県下のガンカモ調査の記録によると、主に大村湾の記録が過半数を占めるが、近年諫早湾の調整池への渡来の増加によって諫早湾の記録が増えつつある。最大で300羽の飛来があるが、カモ類に占める割合は1%にも満たない。長崎市で毎年確実に渡来する場所は川原大池のみであり、渡来数はわずかに10羽前後に過ぎない。

**オカヨシガモ** (カモ科)

準絶滅危惧(NT)

Anas strepera strepera Linnaeus

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 川原大池
 県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長50cmで、県下のガンカモ調査の記録ではヨシガモよりもさらに少なく、全県下で50羽前後、その内川原大池での記録は20羽前後を占め貴重な渡来地となっている。

**ミサゴ** (タカ科)

準絶滅危惧(NT)

Pandion haliaetus haliaetus (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、神ノ島町、神浦ダム、旧琴海町
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス58cm、メス60cmで、長崎市周辺は海岸付近にミサゴの営巣に適した崖地が多く各地で繁殖しており、猛禽類の中ではトビに次いで目撃する機会が多い。冬期は諫早湾などで越冬する個体も多いようである。

**ハチクマ** (タカ科)

準絶滅危惧(NT)

Pernis apivorus orientalis Taczanowski

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、稲佐山、長崎市民の森
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス57cm、メス61cmで、秋の渡りでは、長崎県を東西に横断し県北から五島列島を通過して大陸に向かう大きな群れが、毎年観察されている。春の渡りは、秋ほどはっきりしないようであるが、長崎市では春の渡りは5月に野母崎樺島町で少数が通過しており、秋の渡りではアカハラダカに混じって稲佐山、市民の森でも観察されている。



(3) 鳥類

ハイタカ (タカ科)

準絶滅危惧(NT)

Accipiter nisus nisosimilis (Tickell)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、旧琴海町、神の浦ダム
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長オス32cm、メス39cmで、長崎県では冬鳥として越冬する個体と、旅鳥として通過する個体が見られるようである。長崎市では10月下旬から冬鳥として渡来越冬する個体が各地で観察されている。春は比較的早く渡去するようで4月に入ると目撃する機会が急減する。



岩下氏撮影

アカヤマドリ (キジ科)

準絶滅危惧(NT)

Syrnaticus soemmerringii soemmerringii (Temminck)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 神ノ島町
県内 ; 県本土域

摘要

全長オス125cm、メス55cmで、2005年春に神ノ島町で越冬個体と思われるヤマドリオスが長期間観察された。ヤマドリの特性あるいは個体が縄張りを護るための行動か、人に対しても攻撃的であり各地で長期間観察された個体はいずれも同様な行動をしていた。その他の場所では林道沿いで稀に見られる程度であり、キジに比べはるかに少ない。



クイナ (クイナ科)

準絶滅危惧(NT)

Rallus aquaticus indicus Blyth

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 黒崎永田湿地自然公園、旧琴海町
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長29cmで、長崎市へは冬鳥として秋10月から翌年4月の記録のみである。旧琴海町の放置された水田跡の湿地や、黒崎永田湿地自然公園、宮崎川の葦原、珍しいのは長崎市西部下水処理場の実験槽の葦の茂みに入った例もあり、僅かな葦原などの湿地に生息している。



ヒクイナ (クイナ科)

準絶滅危惧(NT)

Porzana fusca erythrothorax (Temminck & Schlegel)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、黒崎永田湿地自然公園、旧琴海町、古賀町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長22.5cmで、ヒクイナは長崎市で周年見られる留鳥であるが、一部は冬期に渡来する冬鳥も含まれていると考えられる。八郎川沿いの水田では、繁殖期に良く声を聞くことが出来る。冬期はクイナと同じ場所で見られることが多い。



コチドリ (チドリ科)

準絶滅危惧(NT)

Charadrius dubius curonicus Gmelin

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神ノ島町、宮崎川

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長16cmで、長崎市では夏鳥として3月下旬に神ノ島町の西部下水処理場に毎年渡来し、2006、2007、2008年は繁殖が確認されているが、2009年以降渡来はするが繁殖には失敗しているようである。その他の場所では、4月に旅鳥として通過する個体が稀に確認される程度である。

**ヤマシギ** (シギ科)

準絶滅危惧(NT)

Scolopax rusticola Linnaeus

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、旧琴海町

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長34cmで、長崎市では冬鳥として10月下旬に渡来し、各地の湿地で越冬するようであるが出会う機会は極めて少ない。野母崎樺島町での記録が最も多く、旧琴海町の湿地や市民の森、神の浦ダムなど深い森林での観察例もある。



岩下氏撮影

カラスバト (ハト科)

準絶滅危惧(NT)

Columba janthina janthina Temminck

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 II 類 (VU)

環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

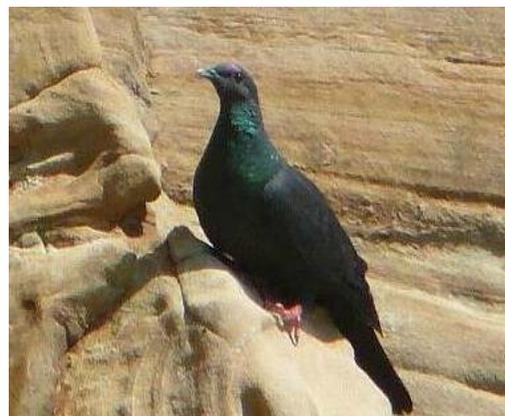
分布

市内 ; 野母崎樺島町、大墓島、母子島

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長40cmで、長崎県では多くの森林の発達した無人島に生息するとされ天然記念物となっている。2009年来野母崎樺島町でしばしば観察され、長崎市の無人島調査で2008年大墓島、2010年母子島で生息が確認された。2011年には野母崎樺島町及び野母崎権現山で複数個体が観察され撮影されている。

**カツコウ** (カツコウ科)

準絶滅危惧(NT)

Cuculus canorus telephonus Heine

長崎県カテゴリー ; —

環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町

県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長35cmで、長崎市では2006年以降ほぼ毎年、野母崎樺島町を通過していることがさえずりによって確認されているが、個体数は極めて少ない。雲仙や多良山系の原野では繁殖するが、長崎市では繁殖に適した広い原野が少ないため、野母崎樺島町以外では一度も確認されていない。



(3) 鳥類

キウシュウフクロウ (フクロウ科)

準絶滅危惧(NT)

Strix uralensis fuscescens Temminck & Schlegel

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町、船石町、川原町
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長48~52cmで、長崎市では野母崎樺島町や川原町などで繁殖が確認されており、5月には幼鳥の巣立ちも観察されているが生息地は限られている。3月に入ると繁殖のため早朝によく鳴くことが多く生息を確認出来る機会が多い。



アカショウビン (カワセミ科)

準絶滅危惧(NT)

Halcyon coromanda major (Temminck & Schlegel)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 長崎県民の森、長崎市民の森
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長27.5cmで、5月に夏鳥として渡来し、野母半島の溪流沿いや長崎県民の森で鳴き声を聞く機会が多い。2008年には繁殖が確認された。



ヤツガシラ (ヤツガシラ科)

準絶滅危惧(NT)

Upupa epops saturata L'onnberg

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、野母町、川原大池、旧琴海町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長26cmで、長崎市は全国的にも数少ない渡りのルートとなっており、毎年春の渡りで3月中旬から4月中旬に野母崎樺島町や野母町で確認される。2008年には2月から3月にかけて、旧琴海町で越冬例もあり、2010年には9月に秋の渡りが1例確認された。



コシアカツバメ (ツバメ科)

準絶滅危惧(NT)

Hirundo daurica japonica Temminck & Schlegel

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、高浜町
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長18.5cmで、長崎市では夏鳥として、少数が渡来し野母崎樺島町や高浜町で繁殖が確認されている。その他は、旅鳥として10月下旬に通過する群れを稀に見る機会があるが、ツバメやイワツバメに比べて極めて少ない。



カワガラス (カワガラス科)

準絶滅危惧(NT)

Cinclus pallasii pallasii Temminck

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 長崎県民の森
 県内 ; 県本土域、対馬市

摘要

全長22cmで、長崎県南部では水量豊かな諫早市の本名川、境川、大村市郡川などの中流域で少数が留鳥として繁殖している。長崎市では、県民の森を水源とする雪浦水系の河通川で2008年と2009年に2年連続して確認されたが、2010年11月以降確認されていない。

**ミソサザイ** (ミソサザイ科)

準絶滅危惧(NT)

Troglodytes troglodytes fumigatus Temminck

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 神ノ浦ダム、野母崎樺島町、矢上普賢岳
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長10.5cmで、長崎県下では、雲仙山系や多良山系の上流部で繁殖しており、長崎市では冬期越冬時に観察されるが、極めてまれである。主な生息地は神ノ浦ダム上流部や野母崎樺島町、矢上普賢岳などであるが、その他の場所での記録は無い。

**ヤブサメ** (ウグイス科)

準絶滅危惧(NT)

Urosphena squameiceps (Swinhoe)

長崎県カテゴリー ; —
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、長崎県民の森、矢上普賢岳
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長10.5cmで、屋久島以北で夏鳥とされているが、長崎では毎年春3月下旬、他の夏鳥に先駆けて、一番早く虫のような独特のさえずりで確認されることが多い。暗い森を好む傾向があり、姿を見られる機会は少ないが、6月に長崎県民の森や矢上普賢岳で囀りを聞く機会が多い。

**オオヨシキリ** (ウグイス科)

準絶滅危惧(NT)

Acrocephalus arundinaceus orientalis (Temminck & Schlegel)

長崎県カテゴリー ; —
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、神ノ島町
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長18.5cmで、長崎県下では、諫早干拓事業の完了後、調整池の葦原にオオヨシキリが多く渡来し大繁殖地となった。一方、旅鳥の通過拠点となっている長崎市では、オオヨシキリは野母崎樺島町や神ノ島を春4~5月と秋9~10月に少数通過する旅鳥となっている。



(3) 鳥類

キクイタダキ (ウグイス科)

準絶滅危惧(NT)

Regulus regulus japonensis Blakiston

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、神ノ浦ダム、野母町
県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長10cmで、本州中部以北の山地のモミ林などで繁殖する。長崎市では、冬鳥として10月下旬から翌年3月下旬まで杉林やヒノキの植林地などで少数の群れが見られるが、確認できる機会は年により変動があり少ない。



キビタキ (ヒタキ科)

準絶滅危惧(NT)

Ficedula narcissina narcissina (Temminck)

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B 類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、神ノ浦ダム、長崎県民の森、長崎市民の森
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長13.5cmで、姿囀りともに美しく、野鳥愛好家にとって最も人気のある小鳥の一種である。長崎市では、春と秋に通過する旅鳥であり繁殖は確認されていない。長崎県下では、比較的標高の高い雲仙山系や多良山系等の落葉樹林帯で繁殖するが数は少ない。



ノジコ (ホオジロ科)

準絶滅危惧(NT)

Emberiza sulphurata Temminck & Schlegel

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)

分布

市内 ; 野母崎樺島町、旧琴海町、三重田町湿地
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長14cmで、本州中部以北で繁殖するホオジロの仲間とされるが、長崎市では、春4~5月と秋10~11月に野母崎樺島町を中心に通過する旅鳥である。春の渡りは、ほぼ毎年確認されているが、秋の渡りは他の小鳥類同様に会う確率が低く、年によって不定期である。



カケス (カラス科)

準絶滅危惧(NT)

Garrulus glandarius japonicus Temminck & Schlegel

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 長崎県民の森、長崎市民の森、矢上普賢岳
県内 ; 県本土域、壱岐市、対馬市

摘要

全長33cmで、長崎市では留鳥として周年見られるが、数は少なく局所的で、ほとんど1~2羽のことが多い。おそらく同じ仲間のハシブトガラスとの競合で生息地を奪われていると考えられる。



アビ (アビ科)

情報不足(DD)

***Gavia stellata stellata* (Pontoppidan)**

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 川原大池、新長崎漁港
 県内 ; 県本土域、五島列島、壱岐市、対馬市

摘要

全長63cmで、冬鳥として九州以北の海上に渡来するとされるが、長崎市では油汚染など何らかのアクシデントにより、貯水池など淡水域に入った時に確認されることが多い。渡来は不定期であり場所も様々である。

**オオハム** (アビ科)

情報不足(DD)

***Gavia arctica viridigularis* Dwight**

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 福田海岸、長崎港
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長72cmで、九州北部では冬鳥として定期的に渡来するが、アビ同様、長崎市では不定期に渡来する。県南部では、雲仙市小浜町海岸でしばしば見られることがある。

**ササゴイ** (サギ科)

情報不足(DD)

***Butorides striatus amurensis* (Schrenck, 1860)**

長崎県カテゴリー ; 情報不足 (DD)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 八郎川、野母崎樺島町、神の浦ダム
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長52cmで、夏鳥として九州以北で繁殖するが、九州南部では越冬する個体も見られる。長崎市では八郎川で越冬例があり、その他は春4～5月と秋9～10月の記録のみであるので旅鳥として通過している個体と考えられる。

**アカガシラサギ** (サギ科)

情報不足(DD)

***Ardeola bacchus* (Bonaparte)**

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
 環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、高浜町、黒崎永田湿地自然公園、川原大池
 県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、対馬市

摘要

全長45cmで、全国的には旅鳥または冬鳥として少数がみられる。長崎市では、春4～5月にほぼ毎年旅鳥として通過しており、秋10～11月にも稀に見られることがある。2005年冬期は黒崎永田湿地自然公園で越冬個体が観察された。



(3) 鳥類

オシドリ (カモ科)

情報不足(DD)

Aix galericulata (Linnaeus)

長崎県カテゴリー ; 準絶滅危惧 (NT)
環境省カテゴリー ; 情報不足 (DD)

分布

市内 ; 川原大池、小ヶ倉水源地、西山水源地、浦上水源地
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、壱岐市、対馬市

摘要

全長45cmで、長崎市でのオシドリの越冬は、餌となるドングリがあるシイ、カシ林に囲まれた貯水池などに多く、なかでも川原大池はオシドリの最大の越冬地となっている。全県下ではオシドリが減少しているようだが、2011年の冬には過去において最高の1500羽もの群れが越冬した。



ヤマシヨウビン (カワセミ科)

情報不足(DD)

Halcyon pileata (Boddaert)

長崎県カテゴリー ; —
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 野母崎樺島町、松崎大池
県内 ; 県本土域、五島列島、男女群島、対馬市

摘要

全長28cmで、派手な色彩と独特の形態により見まがうことのない野鳥であり、野鳥ファンあこがれの鳥である。従来対馬市や日本海の離島でしか見られないとされたが、2006、2007、2009年と3年に渡って長崎市を通過した。長崎市が渡りのルートとして定着することを期待したい。



ヒガラ (シジュウカラ科)

情報不足(DD)

Parus ater insularis Hellmayr

長崎県カテゴリー ; 絶滅危惧 I B類 (EN)
環境省カテゴリー ; —

分布

市内 ; 長崎市民の森
県内 ; 県本土域、対馬市

摘要

全長11cmで、長崎県では対馬市以外に留鳥としての記録はない。古くは1973年の冬に長崎市で観察されており、1995年夏に多良山系で見られたが、いずれも迷行例のようでその後記録が無い。2008年4月に長崎市民の森で囀りが聞かれたが、その後定着せず不明のままである。

